

ななむら

第61号
発行：照来地区公民館
責任者：館長
☎ 92-1738

令和2年7月1日現在
世帯数 537世帯
人口 1,495人
(男696人、女799人)

「野菜づくり講座」を開催！

6月23日(火)久しぶりに「野菜づくり講座」を開催しました。

新型コロナウイルスの影響や手違いによりチラシを配布できなかったこともあり、参加者が少ないのではと心配しましたが、14名の方に参加いただきました。

講師は、温泉総合営農生活センターの営農相談員「西口直樹」さんで、ピーマン、大根、土かおり米の担当をされているとのことでした。

内容は、秋まき野菜と夏野菜の栽培管理についてでしたが、今回は、JAの本年度第1回目のあぜ道相談会が新型コロナウイルスの影響で開催できなかったこともあり、水稻の栽培管理や小豆の栽培についてもお話をいただきました。その中の、白菜と大根の育て方の注意点を載せてみました。参考にしてください。



白菜の育て方

- 植え付け時期を必ず守る。
- 十分に元肥を与えておく。
- 害虫に成長点を食べられないようにする。
- アブラナ科の連作は極力避けるようにする。

大根の育て方

- 未熟な堆肥、石、土の塊などがあると岐根の原因となる。よく耕うんし、フカフカの土で栽培する。
- 収穫が遅れると、ス入りの原因となるため、収穫適期を守る。
- 大根は、湿度が高いと病気が出やすいので、水はけが悪い圃場では、高畝栽培するなどの対策を立てる。

「モリアオガエル」と「シュレーゲルアオガエル」

前号で「モリアオガエル」のことを紹介しましたが、『よく似たカエルに「シュレーゲルアオガエル」がいることを知っていますか。』と、教えてくれた方がいました。ありがとうございます。

皆さんご存知ですか？ 恥ずかしながら、私は知りませんでした。

調べてみると、本当によく似ていてビックリしました。以下のような違いがありました。

1 皮膚の見た目

「モリアオガエル」は、キメが粗く斑紋がある個体が多いのに対し、「シュレーゲルアオガエル」は、乾燥時つるつとしていて、黄色い斑点が入ることもあります。

2 水かき

「モリアオガエル」は「シュレーゲルアオガエル」に比べ、水かきが発達している。

3 成体の大きさ

「モリアオガエル」の成体は4～8cm、「シュレーゲルアオガエル」の成体は3～6cm。

「モリアオガエル」の方が角ばった体形です。

4 鳴き声

「モリアオガエル」は、少しこもった低い音で「グコココ」というように鳴きますが、「シュレーゲルアオガエル」は、リズムカルに「ココココココ」と高い声で鳴きます。

これは多分「シュレーゲルアオガエル」？
私のビニール傘に乗っていました。



8月の事業予定

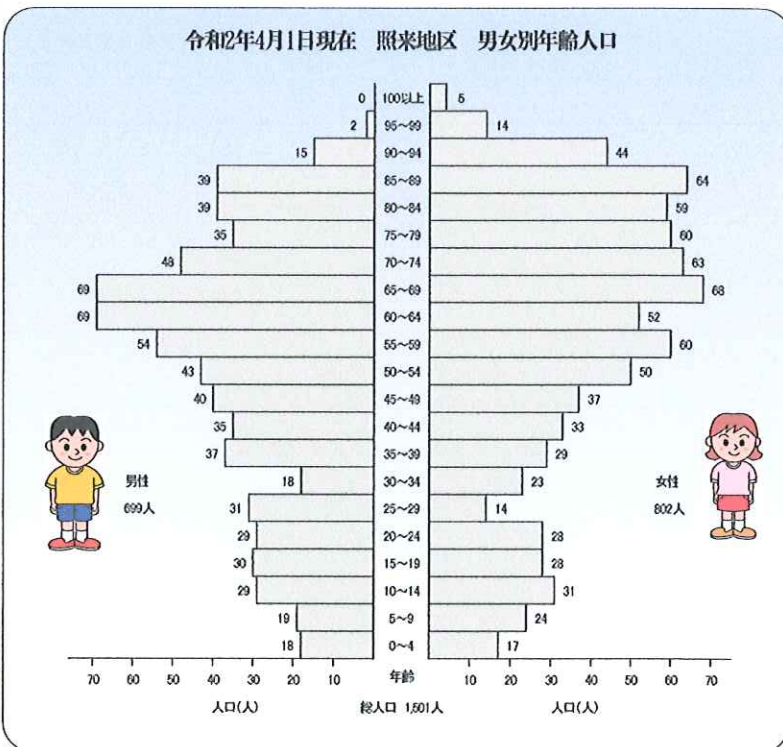
- ◆8月8日(土) 13時30分～
事業：人権を考えるつどい
場所：「浜坂多目的集会施設」
- ◆8月18日(火) 19時30分～
事業：メディカルヨガ教室
場所：「照来地区公民館」
- ☆「ななむらうぐいす会」のカラオケ練習は、もう少しお待ちください。

県・町指定文化財行事

- ◆8月14日(金)～15日(土)
事業：丹土はねそ踊り(県指定)
場所：「丹土公民館前広場」
事業：中辻芸踊り(町指定)
場所：「中辻公民館前広場」
- ◆8月24日(月) 13時00分～
事業：巖山地蔵大権現際(町指定)
場所：「巖山神社」
- ◆8月25日(火) 15時00分頃～
事業：塩山撞木塔婆歌念仏(町指定)
場所：「吹上神社境内」

照来の「人口ピラミッド」

令和2年4月1日現在の照来の年代別人口を調べ、人口ピラミッドにしてみました。労働人口の流出により、高齢層と若年層が残される農村部型の「ひょうたん型」のようです。ただ、若年層の人口が少なく、10歳未満は78人です。



照来の歴史⑮ 『力士岩石』と『かくらべ』

「照来考」に載っている「力士岩石」と「但馬・温泉町の民話と伝説」に載っている「かくらべ」を読んでいると、この2つの昔話に出て来る人物は、同一人物では？と思い掲載してみました。

その根拠は、どちらも「力持ち」、名前に「七」がつくこと、そして「大阪」が関係していること等があります。この2つの話を比べて見てください。そう思いませんか？

『力士岩石』

『昔、丹土に岩石という力士があって、本名を「七」といい、その力の強かったことにおいて、種々の伝説がある。強大な力量はかえって同輩のうらみを受け、毒を飲まされて身体の自由を失った末、遂に帰郷したといわれている。

伝説は多く、発病後丹土へ帰る途中のことで、浜坂街道マンガ崎旧道傍に、岩石の碑と称するものを残しているほか、その没年さえ明らかでない。大阪製の煙管(キセル)に、ガンゼキ張りといって、雁首が小さく、その軸が無暗に大きな煙管があるが、これはかつて岩石がこの店に立ち寄り、煙管を求めようとして、岩石の手につまむごとに、その軸がつぶれたので、店主が前記のような煙管を作ったという。』

(照来考より)



『かくらべ』

『昔、照来に「七ノ助」という大そう力持ちがいました。

普段は、あまり仕事をしそうにない男に見えて、いざというとき、なんと普通の人の何倍もの力を出しては村人を感じさせていました。

例えば、まきを運ぶのに、普通の人であれば30回もかかるところを、「七ノ助」は1回で運んでしまう。稲架の柱でも、一人でかついでしまうぐらいの力持ちでした。そのうわさが、上方(大阪方面)まで広がり、「よし、わしとどっちが強いかな勝負しよう」と、上方の力持ちの男が「七ノ助」の所にやってきました。ちょうどそのとき「七ノ助」は、しばかりに行っていて、男をそこで待たせ、「すぐすむから待ってくれ」と言いながら、大きなしばを根こそぎ引き抜き、それをかざらで大たばにまとめ、「やれ、すんだ。お待ちどうさん」と、辺りを見たが、やってきた男は、「七ノ助」の力におどろいて、すでに逃げ帰ったあとでした。』

(但馬・温泉町の民話と伝説より)